私が持つ北欧のイメージカラーは、凛と澄み渡った冬の空を思い出させるブルーである。この本の装丁は、そのブルーが使われ、可愛らしいイラストと、北欧が大好きで、毎年夏に旅行している私にとっては、懐かしさと親しみが感じられる本である。

各訪問国の社会的背景や概要に加え、移動中などの親しみやすい写真が多く、わかりやすい言葉で書かれているので、とても読みやすい。また、著者は実に行動的で「百聞は一見にしかず」の信念のもと、一九九三年より六度に渡り北欧を訪ね、丁寧にヒアリングを行った内容がまとめられていて、大変考えさせられる本である。

北欧での調査をもとにして、高水準の福祉の実情を事例にて紹介しつつも、日本で常に問題に思っていることは、どこで何をしていても忘れていない。時には日本の事例を取り上げては比較をし、読者に感じている疑問や課題をぶつけてくる。

図書紹介

薗部　英夫　著

北欧　考える旅

福祉・教育・障害者・人生

小島　直子

（バリアフリーコンサルタント）

畑違いの読者への配慮も行き届いている。必要な法律や制度の情報などは、本の下段に注釈として取り上げられており、読者がこの本のテーマに沿った〝思考と考察〟を始めるための〝準備と配慮〟は、万全であると感じた。

本書は、フィンランド、スウェーデン、デンマークと国別に構成され、高水準の福祉の実情が事例をもとに紹介されている。〝福祉国家〟といわれる北欧と日本の水準や質に、なぜこれだけの大きな格差があるのだろうか？そんな問いを常に自分に与えつつ、読み進めていった。高水準福祉の実現は、北欧の税金が〝高い〟ことがよく引き合いに出されているが、これだけの差が生まれている背景を象徴すべく事例を二つ紹介したい。

■障害児教育：フィンランドの就学前教育（エシコウル）

「健常児は一年間、障害児は五歳から二年間、就学前教育は義務づけられている」「就学前教育の「場」は、小学校や保育所に設置する。障害児は、進学する学校や学級など、この〝場〟で丁寧に検討され、保護者とも話しあわれる」「スタッフは、障害児教育と保育の二つの資格が必要である」

障害のある子どもが生まれると、市の職員や保健婦などの訪問、相談、指導があり、親の会が組織され、保育所で専門的な保育を受けることができる。就学前教育の場で、就学の場を集団で実践的に丁寧に検討されるので、保護者も子育ての見通しが持てるという。

「フィンランド人は昔から一部の人だけによい教育をすればいいとは考えていません。私たちは国民全員の教育レベルが上がって初めて、世界に通用する国になると考えています。フィンランド人のこうした考え方やアイデンティティは、ひとりひとりの教育レベルの向上に深く結びついています」

これは元教育大臣オッリペッカ・ヘイノネンの言葉であるが、ここにも象徴されているように、〝排除する〟ことの対極にある〝排除しない（インクルージョン）〟の思想と制度が、フィンランドの教育には徹底されているようである。

■自立の条件：デンマークのオーフス方式

デンマーク第二の都市から北欧全域に広がったとされているオーフス方式は、障害者がヘルパーを選ぶことができる。本人が市に申請すると、会議がもたれ、会議の構成員は、看護師、医師、市の弁護士、本人、家族で、一日何時間のヘルパーが必要か話し合うという。ヘルパー（パーソナルアシスタント）は、デンマークでは、障害者が広告を出し面接して選ぶ。雇用管理を障害者が行い、市に報告、それにあった給料が市からヘルパーに支払われるという制度がある。

素晴らしいとされているこのシステムの問題点はないのかと、著者はある当事者にヒアリングを行う。「ヘルパーとの人間関係がうまくいかないと、管理者になれない。システムが使えない場合もある」という。介助が必要な障害者が自立をするためには、的確に自分のしたいこと、できないこと、手助けしてほしい内容や技法を伝えられるかが勝負であり、そのコミュニュケーション力を得ることは個人に課せられている。一方、行政も根本的な幹づくり、ゆるがない所得保障とヘルパーなど専門家の育成、その人たちが生き生きと働ける場づくりという重要な役割を担っている。

上記二事例からわかるように、北欧では、自己決定権を選択できる自由を最も大事にする。自分の生きることを選べる自由、選べるための社会的環境を整えることが行政の役割だという国民的なコンセンサスがある。一人ひとりにあった生活のあり方を誰もが理解し、支援できる体制が確立されている社会には、差別や偏見も、そこには存在しない。

これから先も、日本に生き続けていく私たちに何ができるか、誰がどのような行動を起こしていけば、状況は変えていけるのか？読者は知らず知らずに、著者の薗部マジックに掛かり、自然と日本を変えるために立ち上がろうという気にさせる〝巧みな技〟を持っているようである。私も日が経つにつれ、そんな熱い思いにかき立てられ、思いを行動に変えていこうと気合い十分である。

（全国障害者問題研究会出版部　価格　一七八五円）